

e-dream-s 通信

No. 92 発行：2008年10月12日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

実りの秋を迎えました。本年度の大きな事業のスタートとして CamTESOL 2009 の進捗状況をお伝えします。山田理事からのサンフランシスコ便りも旬の話題です。どうぞお楽しみください。

目 次

1. スタートの秋	中川房代	p.2
2. 論理ではない部分	辻 莊一	p.4
3. 日本を変える視線	井川好二	p.6
4. CamTESOL 2009 ツアー進捗状況	塚本美紀	p.11
5. 本当の支援とは???—栗本英世さん講演会の報告—	藤本美佳	p.12
6. <サンフランシスコ便り 12号>アメリカ大統領選	山田昌子	p.14

スタートの秋

中 川 房 代

寒露も過ぎ、秋もいよいよ本番。通勤途中に見る田圃の稲刈りもそろそろ終わりに近づいてきたようです。秋は、食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋...といろいろな冠の言葉がつかますね。

8月の定時会員総会での確認を受けて、いよいよ、この秋から e-dream-s の海外教育支援事業をスタートさせます。e-dream-s にとっては「スタートの秋」です。

まず、来年2月に行われる CamTESOL 2009 (カンボジアでの英語教育の研究発表会) への参加です。9月に参加者を募集したところ、現在9名の参加希望者があり、3つのグループに分かれて発表を行う予定です。17日の発表内容概要の応募締め切りに向け、現在、概要の文書の作成の真っ最中です。10月下旬にはその選考結果が発表となります。2008年に引き続き、頑張っ準備を進めていきたいと思ひます。

次に、来年1月のソコム先生の来日です。CamTESOL 2008 で出会い、8月の視察ツアーでお世話になったソコム先生が、カンボジアの教育についての講演をしてくださいます。カンボジアでの事業を成功させるためにも、カンボジアについての学習を進めていきましょう。

2008 事業年度は、この間作ってきたカンボジアの人たちとの関係を深めることを通して、カンボジアでの教育支援事業に着手します。第1弾は「カンボジアでの奨学金事業」です。この奨学金制度を利用して、カンボジアの生徒がもっと英語を勉強できるよう支援をしていきたいと考えています。この秋から、募集の方法や選考の仕方、奨学金の資金の集め方など具体的な内容を論議していきます。1月にソコム先生と、2月の CamTESOL 2009 時にも関係者とも相談しながら、要項を確定していく予定です。2009 年に奨学金制度の形を確立し、第1回の募集が始めることができればと思っています。

国際支援や教育支援といってもその活動は様々で、いろいろな団体が独自の工夫をしながら、自分たちの活動をしているのを見聞します。地震や災害に際しての救援活動や地雷撤去などのための活動をしている国際 NGO などの大規模な組織もあり、また日本の NPO や NGO でも海外での教育支援、特に里親制度や奨学金制度を行っている団体も多々あります。また日本国内で音楽や芸術の分野で、選考された人の活動の財政面で支援をしている団体、スポーツの分野でも地域スポーツの振興を目指して設立された NPO などもあります。

また、活動のための資金を集める方法についても、会費や事業収入以外に団体によってユニークな工夫がされているところもあります。ネット上で団体を選びワンクリックするとその度にその団体に1円の寄付される、物品を購入するとその一部が寄付される、ネットショッピングで購入して溜まったポイントをその団体へ寄付する、などネット社会ならではの資金調達の仕組みも

てきています。

私たちがどんな方法で教育支援を行っていけばいいのか、どんな風に資金を集めるのがいいのか、今後、他の団体の活動のリサーチもしながら参考にしていければと考えています。

学習の秋、食欲の秋。皆で、美味しい物を食べながら、大いに学ぶ秋にもしたいと思います。

論理ではない部分

辻莊一

学校説明会の季節である。私は現任校では広報関係の仕事が多いのだが、例年の仕事に加え、今年には校内で行う説明会での「説明」部分を一手に引き受けることになってしまった。間違いがあってはいけないし、伝えたいことをバランスよく、しかも感じよく話さなければならない。来年の受験者数に影響するかもしれないという思いもある。もちろん説明会といっても私の説明だけではなく、多くの教員が協力して校内見学や個別相談等も行い、バラエティに富むよう工夫されているのだが、それにしても30分から40分の間パワーポイント¹や動画²を使って、退屈しないように構成を工夫しながらではあるが、一人で学校の説明をするのは結構骨が折れる。

話の構成はだいたい決まっていて授業の工夫やユニークな試み、楽しい学校生活などを伝えた後、最後は進学実績ということになっている。いくら先進的でユニークな授業をしても進学実績が振るわなければ、評価されにないのが現実である。ちょうどどんな素晴らしい商品でも値段が高すぎると誰も買わない。考えてみれば学校説明会は商品のメリットを楽しく紹介し最後に価格を提示するテレビショッピング番組とよく似ている。「さあ、この商品はこのように優れた機能があり、さらにこんなたくさん付属品もお付けして、肝心のお値段は？」という代わりに「さあ、我が校はこんな素晴らしい教育をされていて、こんな素晴らしい学生生活が送れます。さて肝心の進学実績は？」と行っているわけである。

テレビショッピングの場合、上記の内容で十分説得力がある（もちろん機能・付属品と価格のバランス次第ではあるが）。では学校の場合はどうだろうか。中学生が志望校を決定するのは、自分の成績や担任や塾の先生のアドバイスが大きく影響し、学校説明会が果たす役割は限定的で、せいぜい「迷っている」中学生にとっての進路選択の手がかりになる程度である。それにしても上記の内容と形式で多くの「迷っている」中学生が勤務校を選ぶことになるのかというと、いささか心もとない。

テレビショッピングで消費者が機能と価格を見て購入するかどうかを決めるように、中学生やその保護者が教育内容と進学実績だけで、この学校に行きたい行かせたいと思うのだろうか。

娘がある新設高校を受験したいと言い出して学校説明会に行った自分自身の体験を思い出してみる。もちろん説明会では様々な素晴らしい取り組みが紹介されたが、私自身がこの学校でいいかな、と思ったのは説明会での先生方の熱心さを見たからである。こんな感じで学校が運営され授業が行われるのなら、娘を行かせてもいいかなと思ったのである。

説明会で様々なメリットを伝えるのは必要不可欠であるが、本当に気持ちを動かすのは、説明の内

¹ Mac ユーザーであるある私はもちろんパワーポイントではなく Keynote を使う。

² 今年は生徒のインタビューを録画し編集したものを使い、好評であった。

容よりも、話し方や態度などの非言語的な部分かもしれない。私が使ったプレゼンテーションやビデオが効果的だったとするならば、そのインパクトや内容よりも、それを準備する熱意を見てくれたから、かもしれないのである。

ACROSSやe-dream-sも活動紹介をしたり会員募集をしたりする機会が多いが、その内容もさることながら、参加会員がどれだけ楽しく活動しているか、が入会の決め手になるのかも知れないのである。

日本を変える視線

井川 好二

「東京へ行ってたんやて？」

「へえ、親戚の法事で」

「そら、ご苦労さん」

「行った次の日、銀座の叔父さんに、築地³へ連れてもろて、朝から場内で、お寿司よばれてきたんどす」

「そりゃ良かった。築地の寿司は、旨かったやろ」

「へえ、お寿司は、まあまあどしたんですけど・・・」

「けど、なんや？」

「築地のお寿司屋のお客さん、外人さんばかり」

行きつけの割烹の女将が、久しぶりに東京へ行き、築地市場で寿司を食べると、まわりは外国人客ばかりだったと云うのだ。築地は、秋葉原や渋谷109⁴などと並んで外国人が好んで訪れる東京の新名所なのである。オタクにギャルに sushi である。

「外人さん云うても、白人さんばかりやおへん」

「黒人もか？」

「いいえ、黒人さんは、あんまりいたはりまへんどしたけど、中国や韓国からの方たちどす」

「へえ」

「見た目には、日本人と変わりまへんけど、喋ったはる言葉聞いたら」

「なるほど」

女将によると、朝の築地は、欧米人に混じってアジアの観光客も、有名寿司屋の行列に並ぶ、のだそうである。

³築地（つきじ）東京都中央区南部、隅田川河口右岸の地区。明暦の大火（1657）ののち、低湿地が埋立てられたところで、多数の大名屋敷があった。日本海軍の発祥地で、関東大震災（1923）後には日本橋から魚市場が移り、青果、食肉も含めて中央卸売市場として都民の台所をまかなっている。築地本願寺、朝日新聞東京本社、国立がんセンターなどもある。【ブリタニカ2008】

⁴109（商業施設）出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』SHIBUYA109：109（イチマルキュー）は、東京急行電鉄の完全子会社である東急モールズデベロップメント（TMD）が展開するファッションビル の名称。TOKYU ポイント 加盟店
[http://ja.wikipedia.org/wiki/109_\(%E5%95%86%E6%A5%AD%E6%96%BD%E8%A8%AD\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/109_(%E5%95%86%E6%A5%AD%E6%96%BD%E8%A8%AD))



海老とメゴチ⁵と野菜の天ぷら

「今日は、天ぷらにさしてもらいました」と女将が運んできたところで、日本酒を頼む。やはり、八海山。秋が深まると、透き通った旨さが際立つ。天ぷらにもよくあう。しかし、それにしても、寿司も天ぷらも、外人さん好みの和食と云うわけである。Tempura⁶ & Sushi⁷。

外国人の眼で見た日本の良さを活かしていくことが、日本の観光地の再生に繋がると、アメリカ人で東洋文化研究者のアレックス・カー⁸は云う。

京都の景観が損なわれてきたのは京都の人のせいだと思います。・・・歴史的な都市である京都がつまらない街になってきたのは、徹底的に古いものをなくしてきたせいだけではありません。

「京都を新しい街にする」といってつくったものが、あまりにもちやちで、遅れているからです。

最近日本各地で増えてきた外国人観光客の眼で見て、素晴らしいと思える日本を増やしていくことが、日本をよりグローバルな観光地に変えていく結果に繋がるのだと云う。もちろん、日本の観光地は、今のままで良いなどとは、決して思わないのだが・・・

⁵ め - ごち【雌鯛】コチ科の海産の硬骨魚。全長 20 センチメートル余。本州中部以南台湾まで分布。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

⁶ tempura |tem poŕra| noun: a Japanese dish of fish, shellfish, or vegetables, fried in batter. (OAD)

⁷ sushi | soŕ sh ē| noun: a Japanese dish consisting of small balls or rolls of vinegar-flavored cold cooked rice served with a garnish of raw fish, vegetables, or egg. (OAD)

⁸ アレックス・カー.(2008, Oct. 9). 「よみがえれ美しき日本4」日本経済新聞 夕刊。



マレーシア・ペナンにあるホテルのプライベート・ビーチ
(Photo by Koji Igawa, August 2002)

メキシコのカンクン⁹、インドネシアのバリ¹⁰、マレーシアのペナン¹¹のように、グローバルで、安全で、清潔なリゾートでは、欧米人が我がもの顔にのし歩いている。

日本が丸ごと、欧米の旧植地的リゾートになる必要はさらさらないので、このままで良い筈のない日本が変わる切っ掛けはやはり、外からの視線なのではないのだろうか？

これからの日本のリゾートは、築地の寿司屋や、北海道のスキー場や、九州のゴルフ場のように、やってくる外国人たちの視線によって、グローバル・スタンダードに向けて変わっていくリゾートと、旧態然たる観光地に、わかれていくのだろう。これも、勝ち組と負け組？外国人が朝から群がる築地市場は、しかし、すでに変わりはじめているのだろう。

変化する日本を分析する百瀬(2008)¹²は、文明開化の時代は、「野蛮」や「未開」という西欧からみた概念を取り除くことが基本。「文明開花」と云う大変化は、実は二重構造になっていると云う。つまり、明治期に「文明開化によって文化が変容する要因」には、「[1] 外国人によるまなざしと、[2]日本人の自己規制」であったとするのである。

実際に、外国人に「見られる」こと [1] によって変化していく部分と、[2] 日本人自身がここ

⁹ Cancún [ka ng koōn; kan-|a resort town in southeastern Mexico, on the northeastern coast of the Yucatán Peninsula; pop. 27,500. (OAD)

¹⁰ Bali | bālē; balē| a mountainous island in Indonesia, east of Java; chief city, Denpasar; pop. 2,856,000. It is noted for its beauty and the richness of its culture. (OAD)

¹¹ ペナン【Penang・彼南】マレー半島の西側、マラッカ海峡北口にある小島。1786年イギリス植民地となる。現在マレーシアに属する。東岸にジョージ・タウン（ペナン）港があり、貿易・観光が盛ん。檳榔嶼・檳城。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

¹² 百瀬響(2008)「文明開花：失われた風俗」東京：吉川弘文館

は西洋のスタンダードをはみ出しているからと、自ら進んで変化させる部分の二重性。大阪で万国博が行われた 1970 年、路上で商売をする地下鉄の回数券売りのおばさんたちが職を失った。外国からお客さんに見られると恥ずかしいと云う理由で、大阪市により回数券は販売禁止となった。日本人自身による自己規制の例であろう。

フリーズドライ製法でつくるコーヒーが、ゴールドブレンド¹³。その TV コマーシャルが始まったのは、1967 年。ベトナム反戦運動が高まりを見せ、ミニスカートが全盛の時代。キャッチコピーは、「違いがわかる男のゴールドブレンド」。コピーも音楽も印象に残るコマーシャルであったが、何よりその映像が、強いインパクト。

映像として取り上げられていたのは、歌舞伎や能などの日本古来の舞台芸術であったり、神社や仏閣などの建築物であったり、茶道や華道であったりした。しかし、その撮影のコンセプトは、従来のもではなかった。あたかも、外国人が見て美しいと思うような日本のテーマを、外国人が選んで撮影したかのようなフィルムであった。結果、見た眼にも非常に斬新で、30年以上たった今でも、思い出す映像である。

そこから、日本の立ち位置が、少し変わったようにも思われる。

「柿どす」

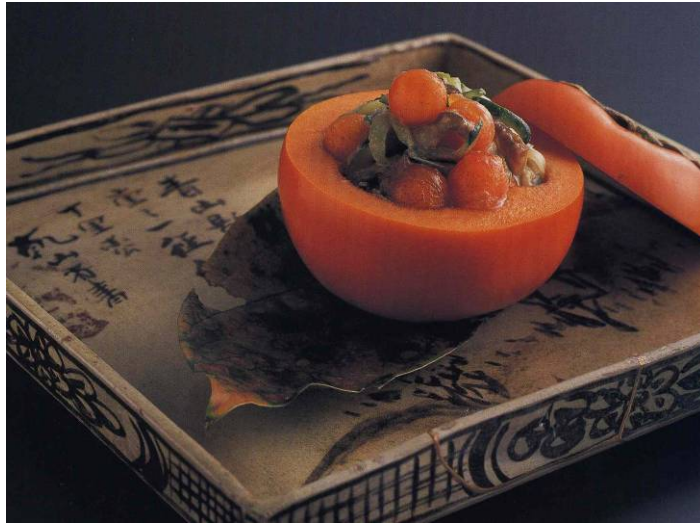
「おお、旨そ。秋になったら、これが愉しみ！」

「センセ、ホンマに、柿がお好きどすよって」

「違いがわかる男の柿や」

「ホンニ」

¹³ゴールドブレンド 1967 年 発売。ネスカフェの上級ブランド（アメリカ等では、"Taster's Choice"というブランドがあった。）で、日本ローカルの製品と思われる。かつては、「違いがわかる男の、ゴールドブレンド」のキャッチコピーで各界の有名人を CM に出演させ、“通の選ぶブランド”というイメージを固めて来た。1990 年代には「上質を知る人の〜」、現在のキャッチコピーは、「違いを楽しむ人の、ネスカフェ・ゴールドブレンド」。使用曲は 八木正生 作曲の「目覚め—ネスカフェ・ゴールドブレンドのテーマ」で不変（例外として、小田和正 が出演した時は彼の曲が使用された）。出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8D%E3%82%B9%E3%82%AB%E3%83%95%E3%82%A7#.E3.82.B4.E3.83.BC.E3.83.AB.E3.83.89.E3.83.96.E3.83.AC.E3.83.B3.E3.83.89>



柿を盛る：「自遊人」2008.3 p. 102

乾山¹⁴風の四角い皿に、盛られた柿が彩る秋の夜長である。日本のリゾートの今後を考えるのには、お誂え向きの夜である。(Sunday, October 12, 2008)

¹⁴おがた - けんざん【尾形乾山】江戸中期の陶工・画家。京都の人。技法は仁清（にんせい）に倣い別に新意を出した。兄光琳が絵付に加わる。作陶は雅趣があり、茶人が愛玩。のち江戸で製した。（1663～1743）[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

CamTESOL 2009 ツアー進捗状況

塚本美紀

CamTESOL への申し込みの締め切りが10月17日に延期になり、現在各グループともアブストラクトと申し込み書類の作成に取り組んでいます。各グループの構成は以下のとおりです。(いずれも正式なタイトルではありません。)

1. Professional Development Needs : 井川、辻岡
2. アクロスの発音訓練 : 辻、河野
3. テレビ会議 : 塚本、ブライアン、仙崎

10月12日(日)、大阪で参加者によるミーティングを行い、発表の内容についての検討を行います。その後、すべてを取りまとめて CamTESOL の事務局に提出します。昨年、いろいろと便宜を図ってくれた事務局の Kagnarith が米国留学中なのが残念ですが、今年も e-dream-s を少しでもアピールできるように働きかけたいと思います。

「テレビ会議」グループでは、今後、ブライアン、仙崎さんともテレビ会議を使った授業を行って、発表への準備をしていきます。

冬合宿に参加してくれる Sokhom とのメールのやり取りの中で、私が、色づきつつある木の葉の話をしたら、来年日本の秋を経験できるのが楽しみです、とのことでした。当然のことながら、カンボジアには「秋」はないのですよね。日本の美しい四季を、早く楽しんでもらいたいと思います。

本当の支援とは？？？—栗本英世さん講演会の報告—

藤本美佳

10月4日(土)に、13年前からカンボジアで支援活動が続けていらっしゃる栗本英世さんの講演会に参加してきました。

カンボジアの現状として、「国土の46%に地雷が埋まっている」「農業、林業、漁業どれもできない(例えば、池の魚を獲る権利は政治家がにぎっていて一般の人々の手にはとどかない)」「識字率は世界一低い」「70%の地域に学校がない」などを挙げられました。私が一番衝撃を受けたのは「人身売買・少女売春・違法な臓器移植」についての話です。ずいぶん前から栗本さんはこれらの問題について訴えてこられてきましたが、NHKで特集が放送されても、ほとんど反応がなかったそうです。最近、梁石日(ヤンソギル)原作の『闇の子供たち』が映画化され大きな反響をよんでいるようで、日本が変わりつつあるかもしれないとおっしゃっていました。問題の深刻さに、それが現実であることになんとも言えない気持ちになりました。

栗本さんは、これまで様々な形で支援をされてきました。その中で「大失敗」の例としてあげられたのが、貧しい地域に住む努力家の子どもを選んで、奨学金を出す支援です。彼らはよく勉強し、医者や弁護士になる子もいたそうです。支援した子どもは全部で数百人ほどになりましたが、結局、彼らは自分の村を助けることをせず、村人たちを避けるようになった、というのです。

「何が本当に必要な支援か？」手探りの中で活動が続きます。

地雷のある地域の人たちが「地雷あり、危険」という字が読めず被害にあっていることを知り、識字教育を始め、人身売買で売られていく子どもたちを見て、Noと言える子どもを育てようと、学校(寺子屋)をつくり始め、今では18の村に18の小学校、6つの幼稚園、1つの中学校ができたそうです。次の問題は、学校を卒業しても仕事がないことです。そこで、建築・料理・工芸品づくりなどの技術を教える「仕事学校」が始まりました。研修生を日本によんで家電製品の修理の技術を身につけてもらいカンボジアで村人に教えることができるようにしたいとも話されました。

「私なら地雷を一時間に30~40個とれます」という栗本さん。驚きました。ではなぜ、地雷はなくなっていないのかというと、そこに利権の問題があるというのです。また、現実の支援現場では海外の人たちによって行われている援助活動が、必要のない所に橋ができたり、あまったお金で一部の人の懐が潤ったりということになっていて、厳しい状況におかれている人、貧しい人々の状況はよくなり、自立の道へとつながっていないという話に考えさせられました。多くの支援が、結局は、援助を受けている人達の心を傷つけ・自尊心を失わせ、援助者の都合で「始めたり、終ったり」している現実がある…。

当日買った栗本さんの本『慈悲魔(じひま)』にはこう書いてありました。

「相手の立場にたって考える」「相手と同じ目線で見える」こんな気持ちで活動をしていけば必ず失敗します。

その支援が「幸せ」のおしつけになっていないか「助けてあげよう」というような「傲慢な心」がそこにあるかという問いかけです。

「貧しい人々の問題を安易にお金で解決してはいけません。お金で解決することは彼らが自分たちで解決できない方法だから。最高によいと思える方法は『友』となることです。相手の人を尊敬してはじめてできる人間関係です。」

とも書いてありました。

現地を知ることの大切さと、本当の支援とは何かをしっかりと自分で考えていくことの必要性を感じた講演でした。

アメリカ大統領選

理事 山田昌子

10月3日（金）木曜の授業（English 732）の後、何人かのクラスメートと教授のオフィスに行って課題のペーパーの相談をしていた時、教授が「今日は午後6時からテレビでディベートがあるね、見るかい？」と雑談を始めた。日本では学生に政治の話をするのはタブーという雰囲気があるが、こちらでは、この教授も授業の枕でよく大統領選の話をするし、他の教授も大統領選をネタに授業を進めることが多い。アメリカ人学生の反応を見ている、現在超問題になっているアメリカ経済のことだけではなく、大統領選はアメリカの大きな関心事なのだということが実感できる。「へえ、今日は第2回の討論会ですか？前回と同じく90分ですよ。じゃあ、今日は私たちは7時まで授業があるから見られないです、残念です！」

教授が話されていたのは、共和党のSarah Palinと民主党の Joe Bidenの副大統領候補討論会だった。あるウェブサイト¹⁵によると、7,000万人がテレビでこの討論会を見たという。第1回の大統領候補、共和党のJohn McCain、民主党のBarack Obamaの討論会（9月26日）が5,240万人の視聴だったらしいので、視聴者はうーんと増えたことになる。

Palinが副大統領候補に決まった時、女性の候補で新鮮で相当人気があったようだが、最近になって、経験不足のため副大統領候補としては適切でないと思う人が増えて来たらしい。

翌日の登校時、MUNIバスに乗りこんだら、私の前に座っていた若者が「彼女はホットだよ」。すると、私の隣りに座っていた女性が「私は彼女にイカっているのよ」。何を話しているのだろう、誰の話なんだろう・・・とじっと聞いていると、前夜の副大統領候補討論会のPalinのことだった。MUNIバスの前方は、3名の若者の副大統領候補討論会批判会になっていた。他の乗客は、私と同様、黙って聞き耳をたてていた。「彼女の言ったことは全然答えになっていないし、覚えた台詞をそのまま言っているだけだよ。北朝鮮の金正日（キム・ジョンイル）の名前がちゃんと発音できなかったのには笑ってしまったよ。覚えててをなんとかごまかしているのがよくわかったよ！」彼らの批判はまだ続く。「彼女はまるで『女Bush』だよ！」という台詞には私は思わず吹き出しそうになったが、かろうじて堪えた。私は副大統領候補討論会を見ていないので、わからないが、そういう噂を聞くことがある。私の大学のキャンパスでは、ObamaのバッジやTシャツを付けたり着たりしている学生が目立つ。そのせいかな？！ そう言えば、第1回の討論会の後たまたまダウンタウンに行くバスに乗ったが、そこでもObama支持の乗客が前夜の討論会のことを興奮して話しているのを聞いた。日本のような選挙演説カーがないのと、San Francisco は比較的大人しい街のせいかな、大統領選はどこ吹く風と思いがちだが、それでも大統領選の話はどこかで聞く。San Francisco Chronicleのウェブサイトに乗っているPoll Tracker（San Francisco時間で10月5日）¹⁶によると、全

¹⁵ http://www.sfgate.com/cgi-bin/blogs/sfgate/detail?blogid=24&entry_id=31111

¹⁶ <http://www.sfgate.com/campaign2008/>



国では 49.3-43.4でObamaが勝っている（カリフォルニア州もObamaが優勢）が、地域によっては小差でMcCainが優っているところもあるらしい。全米の地図を見るとMcCainの赤い印が目立ち、中部や南部の支持が多いことがわかる。

それにしても（副）大統領候補討論会がある度に、全米が視聴し、翌日はそれで大騒ぎ。アメリカ国民にしてみれば（また世界の人々にとっても）、この大統領選は、（1）現在のアメリカ経済の大危機をどう乗り切るか、（2）イラク等の軍事派遣を今後どうして行くのか、（3）アメリカ独立以来初めての African American の大統領候補の出現（サンフランシスコは多民族都市なのであまり感じられませんが、地域によっては Obama への黒人差別の発言も結構あると聞く）、という歴史上まれにみる重要なターニングポイントになる大統領選のよう。政治や経済に疎く、英語がよくわからないという私の個人的な問題、また現在は大学の課題が忙しくテレビを見たり、討論会の話題をアメリカ人と話す機会が多いとはいえない問題があるが、折角この時期にアメリカに滞在しているのだから、できるだけ知りたいとは思っている。11月初旬の投票まで、目が離せない。

<編集後記>

CamTESOL2009 での発表に向けて準備真っ只中の様子、各グループの皆さんのご健闘を祈りたいと思います。それと共に、通信などで紹介されたカンボジアについての書物を読んだりテレビ番組を見たりして、一人一人がカンボジアの現状について大いに学ぶ秋にしたいものです。

<写真紹介>



Japan Culture Night 2008 年 9 月

山田理事から 9 月号に報告があった Japan Culture Night の全体写真が届きました。さまざまにつながり集った 80 名を越す参加者が、日本文化を楽しんだとのこと、それぞれの笑顔から改めて伝わってきました。

(道面和枝)